

Topic114 年末特別号

こんにちは、村上です。

今年もまた、あっという間に暮れのあわただしい時期になりました。この 1~2 ヶ月、米国のあまり喜ばしくない動きを立て続けに耳にしましたので、今回は年末特別と称しそのうちの 2 つを紹介いたします。

来号からは、明るい話題を豊富にお届けできるような社会情勢になることを切望します。来年もよろしくお願いいたします。

1. USGBC(米国グリーンビルディング協会)が集団訴訟を起こされた¹⁾

2010 年 10 月 8 日、USGBC とその設立者達を被告として、Henry Gifford(機械エンジニア、Gifford Fuel Saving のオーナー)が連邦裁判所に集団訴訟を起こしました。訴訟では、①USGBC は LEED 格付けシステムにより、認証建物のエネルギー性能に関して事実を捻じ曲げて伝えており、消費者を欺いている、②LEED は消費者をきちんとしたエネルギー削減戦略から遠ざけることにより環境に悪影響を与えている、③USGBC は省エネ建物設計市場を独占している、などについてその他の申し立てとともに議論されるようです。

上記の主張を裏付ける根拠として、次のことがあります。

- ・ NBI(New Building Institute)と USGBC は、米国の平均的な建物に比べて LEED 認証建物は平均して 25~30%効率が良いという研究成果(2008 年)を出している
- ・ しかし、Gifford 氏の研究によると LEED 認証建物は平均して 29%効率が悪いという結果(2008 年)となった

しかしこの後、National Research Council Canada(NRCC)は、NBIと USGBC の研究成果を後押しする結果を出しています(NBIらのデータを NRCC が再分析)。

ちなみに、Gifford 氏のほかに USGBC から損害を被ったと主張している原告としては、LEED 認証建物を購入したオーナー達、LEED により生計を立てる手立てが危なくなった技術者達、LEED 建物助成金に税金が使われた納税者達、などがいます。

今回のような訴訟では、集団訴訟は法的に難しいという弁護士の意見もあるようです。この訴訟のその後は、いずれ報告いたします。

2. CCX(シカゴ気候取引所)が今月末で閉鎖²⁾

米国唯一の温室効果ガス排出権取引市場である CCX (Chicago Climate Exchange: 自主的な取引だが、法的拘束力はある)が、2010 年 12 月末で取り引きを停止し、閉鎖されます¹⁾。

COP15 で二酸化炭素削減に積極的な姿勢を示したように、昨年は米国で排出権取引にプラスの動きがありました。民主党議員が包括的キャップアンドトレード法案を通し、法律に基づく排出

権取引が主流になると思われていました。しかし、類似の法案が上院で形勢悪化し今年廃案になり、カーボンクレジットの価格は崩壊しました²⁾。

ちなみに、京都議定書に基づく排出枠を義務付けているヨーロッパでは、欧州気候取引所の取引量は増加し続けているそうです²⁾。

排出権取引市場が頓挫した米国と、波に乗っているヨーロッパ、今後どちらが主流になるのでしょうか。日本の国内取引はパイロット段階で、国内市場の創設が検討されていますが、CCX の閉鎖はどのように日本に影響を与えるのか、今後の動きを注目したいと思います。

ところで、CCX 閉鎖については NHK のニュースで知りました。中間選挙での民主党の大敗が環境政策後退の理由と分析していました。しかし、ネットで情報を集めようとすると、欧米のいわゆる“大手メディア”はこのことについて報道していないことが分かりました(引用した NYT は記者のブログで記事ではない)。何か理由があるのでしょうか。

出典

- (1) <http://www.buildinggreen.com/auth/article.cfm/2010/10/14/USGBC-LEED-Targeted-by-Class-Action-Suit/?redirsupercede=0> (2010/12/22)
- (2) <http://www.suite101.com/content/carbon-trade-ends-on-quiet-death-of-chicago-climate-exchange-a305704> (2010/12/22)
- (3) <http://green.blogs.nytimes.com/tag/chicago-climate-exchange/> (2010/12/22)

(村上の独り言)

今年はまったものは、丸谷オーのエッセイです。旧かな使いの独特の文体に最初は驚きましたが、博識でありかつユーモアを含んだ内容を純粋に面白いなあと思いながら読みふけりました。

ところで、私が足を踏み入れたことのなかった都道府県2つのうち1つは山形県で、機会があれば行きたい場所の1つでもありました。そうして、丸谷オーは山形県鶴岡市の出身。山形県に行きたい願望が高まるのは必定で、ついに初秋の山形旅行を決行しました。鶴岡市は遠すぎて山形市で妥協したのですが、“山形県に行ってその雰囲気を感じた”というだけで大満足です。

旧県庁の建物は荘厳で美しく、この建物が現在も残っていて良かったと喜んでしまいました。内部では山形県と山形市の歴史を学べる上に、旧県庁の建築図面や建材、修復作業の様子についても詳しく説明していました。リノリウムが昔は天然素材で作られていたことや、漆喰の飾り(ギリシャ宮殿の柱の装飾部分のようなもの)は彫刻ではなく左官職人がコテで塗り上げて作るということなど、ここで初めて知りました。旧県庁の展示物の選定の洪さと内容の詳細さに、堅実で律儀な県民性が現れているように感じました。

山形県訪問を果たし、未踏の地は本州最北端の県だけとなりました。次は太宰治にはまるべきなのでしょうか。結果は来年の独り言で報告いたしますので、引き続きよろしくお願いいたします。

バックナンバーはこちらからどうぞ！

「ERS Sustainable Site」：<http://www.brown-green.com/>

未来が変わる。
日本が変える。

チャレンジ
25

イー・アール・エスはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。